

河北新報普及センターと尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモモ通信

2019年 8月



ハナモモちゃん

【発行】
河北新報普及センター
【協力】
尚絅学院大 河北仙阪
【エリア】
名取市内
【部数】
11,600部
【電話】
022(266)2991

太鼓や花火復興誓う

なとり夏まつりにぎわう

「第34回なとり夏まつり」が3日、下増田小（美田園7丁目）グラウンドで行われました。今年は、昨年より約1000人増の、約2万4000人が来場。70ほどの出店も祭りの盛り上げに一役買っていました。



テーマは東日本大震災犠牲者の鎮魂と復興。オープニングでは、閑上太鼓保存



会場の様子

のメンバ―が太鼓の演奏とパフォーマンスを披露しました。たくさん魚がかかった網の前でかいをこぐような踊りや、力強い音色を披露して聴衆を圧倒しました。

ダンスや音楽、浴衣コンテストなど世代を超えて楽しむことができるアトラクションが盛りだくさんでした。

宵（よい）の午後6時すぎには「供養祭」があり、海難事故や東日本大震災の犠牲者に黙とうをささげました。会場は静寂に包まれ、厳粛な雰囲気。市商工会女性部部長の相澤きよのさん（72）は「犠牲になられた方々に成仏（しょうぶつ）していただきたい一心で祈りました」と話しました。

メインイベントは約4000発の花火。斜めに打ち上がる稲穂のような花火や、枝垂れ花火など多彩な光が約1時間にわたって夜空を彩りました。

主催（市観光物産協会）の大木真里子さんは「打ち上げ場所が会場の目の前にあるのは、他にはない魅力だと思う。『迫力があってよかったよ』と感想をもらえてうれしかった」と喜んでいました。

（星野裕太、村田陽香）



国指定重要文化財 洞口家住宅

江戸中期の面影が残る

市内の遺跡・史跡などをハナモモ記者が巡る「名取史跡巡り」ハナモモ記者ぶらり旅。第3回は、名取東部の大曲中小路にある古民家「洞口家住宅」を紹介しします。

「洞口家住宅」は宝暦年間（1751～1763年）に建設され、現在、主屋、座敷蔵、味噌蔵、馬屋、長



のように組まれた特徴的な構造となっています。

建物の一部は実際に利用されています。米蔵は東北工業大の学生らが不定期にカフェとして利用しています。

住宅で生まれ育ち、管理する農家、洞口とも子さん（70）は「文化財は活用してこそ意味がある。大学や地域との連携を大事にした」と話しています。見学の希望者は要事前連絡。連絡先は洞口さん022（385）1908

（星野裕太、石幡快、石井太陽）



◇アクセス◇
JR東北線名取駅から、なとりん号閑上線で「多賀神社」バス停下車、徒歩約5分。

